

# 朝日小学生新聞

2018年(平成30年)2月27日 火曜日

◎朝日学生新聞社

東京本社 〒104-8433 東京都中央区築地5-3-2

大阪支社 〒530-0005 大阪市北区中之島2-3-18

電話 03(3545)5223(広報) 06(6202)3893(大阪)

記事についてのお問い合わせは03(3545)5222(編集部)

**ピックアップ**

3面

国際雪合戦



まんがニュース ココロエンターティ  
リーグハイブリッド

2面




大勢の中のあなたへ2

3面

算数あそび

5面



楽しくまじり

7面

パパキッコ

8面



## 栄養があって乾燥に強い

### 愛知県春日井市普及に取り組み

とげとげの植物、サボテン。日本では観賞用としておなじみですが、メキシコなどでは食用にもなっています。栄養価の高さと乾燥への強さなどから今、世界的にも注目を集めています。日本で食用サボテンの普及に取り組み愛知県春日井市で取材しました。

(八木みどり)

# 食用サボテン 世界が注目



左から春代、白丸、井之介

愛知県春日井市で食用サボテンを生産する後藤啓充さん。左上は同市のサボテンをPRするキャラクター

春日井市は、種から苗を育てる実生栽培で、サボテンの生産量日本一を名乗ります。サボテンの栽培が広がったきっかけは、1959年の伊勢湾台風でした。春日井市で盛んだった果樹栽培が大きな被害を受けたこと

から、果樹に代わってサボテンの栽培が広まりました。

春日井商工会議所は2006年、このサボテンをまちおこしに役立てようという計画。日本ではまだ知られていない食用サボテンを広めるための取り組みを始めました。

食用になるのは「ウチワサボテン」という種類。小さいですが、とげがあるのので、刃物で取ってから調理します。切るとオクラのような匂いがあります。味に強い個性はないので、他の食材と合

わせて焼いたり、いたり、さまざまなアレンジができるそうです。

食用サボテンを生産する後藤啓充さん(36歳)は、プロジェクトの開始を受けて試験的に栽培を始めました。現在は食用サボテン専用のハウスを造り、年間5〜6トンを生産しています。

農産物には作物ごとに使える農薬や使い方が法律で決められています。食用サボテンにはまだその決まりがありません。農薬が使えず、害虫をねらっていないと話しています。

対策などに苦勞しながらも、生産を続けてきた後藤さん。「10年近く続けてみて、ようやくわかるようになってきました」と話します。

サボテン農家の数は減りつつあります。現在は市内でも軒ほどしかなく、食用を栽培しているのは後藤さんのみ。後藤さんは「食用サボテンは、春日井のサボテンをPRする手段の一つ」とした上で、「今後は後継者を育て、産地としての復活をねらっていきたい」と話しています。



サボテンを使ったお菓子やこんにゃく、ラーメンなど=愛知県春日井市のこだわり商店



春日井商工会議所が発売予定のサボテン「SUU」

**アロエに似た食材、新商品も出る**

春日井市内では、菓子店や料理店などがそれぞれ、サボテンを使ってさまざまな商品を開発しています。サボテンを使った商品をあつかう「こだわり商店」の出口、美穂さん(36歳)は「サボテン入りのいろいろなやかスタラは、もっちりしておいしいです」。

春日井商工会議所は今年春、新商品「サボテンSUU」の発売を予定しています。サボテンを乾燥させたエキスを炭酸水に混ぜたサイダー。商工会議所では「素材のよさを味わってほしい」と話しています。

プロジェクトに参加している中部大学応用生物学部助教の榎部貴紀さん(31歳)によると、サボテンには食物繊維やカリウム、ポリフェノールな

どが多く含まれるので、便秘の予防やむくみの解消など、さまざまな効能があるそうです。国連食糧農業機関(FAO)は去年11月、ウチワサボテンが「野菜、家畜の飼料、水の供給源などとしての役割が期待される」と、食用への活用をすすめる見解を出しました。

榎部さんは「サボテンと似ているアロエが日本でもごくありふれた食材になっていきます。サボテンが食べられるというところがもっと知られるようになれば、食用サボテンも定着していくのでは」と、その可能性に期待を寄せています。

## 熱戦に幕 日本、メダル13

## 平昌五輪 2018

韓国・平昌冬季オリンピック(五輪)は25日、閉会式があり、17日間の大会が幕を閉じた。写真。日本は1998年長野大会の10個を上回る、史上最多の13個(金4、銀5、銅4)のメダルを獲得しました。

日本からは選手、役員ら約130人が参加。選手団の主持で、スピードスケート女子500メートル

トルで金メダルを獲得した小平奈緒選手(31歳)が旗手を務めました。韓国と北朝鮮の選手は開会式に続いて、一緒に入場しました。

今回の2022年大会は、中国の首都・北京で開催されます。3月9日には障がい者スポーツの平昌冬季パラリンピックが開幕します。

3面に関連記事



朝日新聞社